

ぶんけい

教育ほつとにゅーす  
かわら版こ みち  
教育の小径No.65  
3月号

2014 March

今月のことば

## 光陰矢の如し

月日の経つのが早いこと。「光」は日、「陰」は月を意味します。「光陰」とは年月や歳月や時間のことです。過去を振り返り、早く過ぎ去ったときなどに使われます。



国士舘大学教授  
北 俊夫先生

## 関心・意欲・態度とは何か

- 関心と意欲と態度には、それぞれ独自の意味や内容があります。これらには関心から意欲へ、さらに態度へと関連性と発展性があります。
- 評価の観点「関心・意欲・態度」には、学習意欲・態度と社会的な態度という二つの側面があります。評価に当たってはまず指導することが前提です。

今月の記念日

## 耳の日(3月3日)

「み(3)・み(3)」の語呂合わせや、3の字が耳の形に似ているため。健康な耳を持っていることに感謝し、耳の不自由な人に対して社会の関心を高めるために制定されました。

## 関心と意欲と態度とは

「関心・意欲・態度」と言えば、多くの先生方は各教科の評価の観点を連想します。本観点は各教科において「〇〇への関心・意欲・態度」と示されています。昭和55年の児童指導要録の改訂において、「〇〇に対する関心・態度」の観点名で初めて示されました。当時は「どのように評価するのか」「そもそも評価などできるのか」といった疑問や戸惑いがありました。現在のように改められたのは、平成4年の改訂からです。

「関心・意欲・態度」の観点を適切に評価するためには、この観pointsの趣旨を正しく理解することが不可欠です。

「関心・意欲・態度」とひと言でまとめて言いますが、関心と意欲と態度はそれぞれ意味することや内容にはかなりの違いがあります。

日常生活においては、「A男君は最近星の動きに関心をもっている」とか「B子さんは宿題に意欲的に取り組むようになった」とか、さらには「C男君の生活態度がよくなった」「D子さんは学習で学んだことを生活の場で積極的に生かそうとする態度が見られる」などのように使われています。このように日常生活において、関心と意欲と態度は、明らかに区別されています。

「関心」とはある事象に対して興味をもって心にかけることであり、「意欲」とは積極的にかかわろうとする意思や気持ちをもつようになること。そして「態度」とは自分の意思や感情を表情や身振りや言葉遣いなどで外部に表出することだと言えます。三つの要素はそれぞれ独自の意味をもちながら相互に関連しています。いずれも心のもちようや感情という点では共通しています。

「関心・意欲・態度」の指導と評価に当たっては、本観pointsの三つの要素を理解することが大切です。

## 学習意欲の評価だけでよいか

各教科において「関心・意欲・態度」の観点から子どもの学習状況を評価するとき、多くの場合「〇〇に関心をもち、意欲的に学習に取り組んでいる」といった内容の評価規準が設定されています。これは「学習意欲・態度」の側面からの評価です。これはこれで重要なことですが、学習意欲の評価だけでは「関心・意欲・態度」の評価にはなりません。なぜならば、文部科学省からの「観pointsの趣旨」によると、「関心・意欲・態度」の観pointsについて次のように示されているからです。

国語科の「関心・意欲・態度」の趣旨には「(前略)国語に対する関心を深

め、国語を尊重しようとする」とありませぬ。算数科には「進んで生活や学習に活用しようとする」とあり、理科にも「自然を愛するとともに生活に活かそうとする」とあります。いずれも社会的な態度にかかわる側面です。

各教科の「関心・意欲・態度」の趣旨には、学習意欲・態度と社会的な態度の二つの側面が示されていることに留意して評価することが重要です。

「関心・意欲・態度」の評価に当たっては、ペーパーテストなどを実施して数値化することは馴染みませぬ。子どもの学習状況を多面的、継続的に観察し、できるだけ長い目で評価することが大切です。短期間で決めつけたり一面的に判断したりすることは望ましい評価だとは言えませぬ。教師の研ぎすまされた鋭敏な観察力や洞察力が問われると言ってもよいでしょう。

このことは、子どもの「関心・意欲・態度」を評価するためには、その前提として、授業において関心や意欲や態度を育てるための指導が充実していなければならないことを意味しています。指導することなく、評価だけをするのは、子どもに対して大変申し訳ないことです。

「関心・意欲・態度」を育てるための指導方法が明らかになると、評価の仕方が見えてくると言えます。指導と評価は一体だからです。

### 意欲を高めるコツ

保護者は誰でもわが子が意欲的に学習に取り組むようになってほしいと願っています。その一つのヒントを私の経験をもとに示しましょう。

私の趣味は旅行することです。目的地が決まると、次のような順で旅行の計画を立てます。

まず、いつ出掛けるかを決めます。日帰りか、一泊か、それとも二泊できるか。仕事の予定を考慮して決定します。次に、どこの建物や景勝地を見学するか。どのようなコースにするかを決めます。日程が決定したら、宿泊先や交通機関を予約します。これらの都合によっては、コースが変わることもあります。

このような計画や準備を事前に行っていくと、旅行のイメージが豊かになり、旅行に対する興味や関心が高まっていきます。「早く行きたいな」といった気持ちになっていきます。

計画を立てることを段どりをつけると言います。これからどのようなことをどのようにするのか。人間だれでも見通しがつき、先のことが見えてくると、意欲が高まってきます。

子どもが学習に取り組む場合にも、いつも周囲から次に何をするのかを指し示してやらせるのではなく、子ども自身に学習計画を立てさせるようにすることが大切です。そこでは、無理や無駄のないもの、実際にやり遂げられるものであることがポイントです。

最初のうちはハードルを低くし、「やればできる」「やってよかった」といった成就感や達成感を味わわせるようにします。何ごとにも見通しをもたせることは、子どもの意欲を高めるための重要なコツだと言えます。

### 土曜授業の実施

文部科学省では、昨年3月、省内に「土曜授業に関する検討チーム」を立ち上げ、土曜授業のあり方について検討してきました。昨年6月に「中間まとめ」が、9月には「最終まとめ」が出されました。「まとめ」には、これからの土曜授業実施に当たった考え方が示されています。

現在の学校週5日制は学校、家庭、地域の三者が連携し、役割を分担しながら社会全体で子どもを育てるという基本理念のもとに制度化されたものです。土曜日には子どもを家庭や地域に返すとも言われてきました。このこと

に照らすと、土曜授業は週5日制の理念に逆行し、週6日制の復活ではないかと指摘する声もあります。

学校教育法施行規則には、土曜日を休業日としていますが、「特別の必要がある場合にはこの限りではない」と定められています。これを受けて、土曜日に授業参観日や運動会、補習授業などを実施してきた学校がありました。しかしどのような場合が「特別の必要がある場合」なのか、必ずしも明確になっていませんでした。

文部科学省は全国一律に土曜授業を制度化するのではなく、学校教育法施行規則を改正し、学校の設置者が実施の判断をできるようにしました。各教育委員会はどのように判断するか、4月からの実施状況が注目されます。

### コラム 北 俊夫の「3.11」体験談(5)

#### 家族と連絡がとれない

羽田空港から移動する手段がすべてないことを知ったとき、自宅に帰ることを諦めました。このことを家族に連絡しなければなりません。携帯電話を何度もかけましたが、不通知です。何度かけてもつながりません。そのうち充電された電池が無くなるのではないかと心配になってきました。

「公衆電話はつながりやすい」ということを思い出し、公衆電話を探しました。ところが、たびたび利用している空港ですが、どこに公衆電話があるのかわかりません。係りの人に聞きながらようやく探し出しました。

そこはすでに長蛇の列でした。私は列の後ろに並びました。かなりの時間が経ってからようやく自分の番になりました。ところが、その電話にはコイ

ン(10円玉)を入れるところがありません。テレホンカードしか使用できない電話だったのです。テレホンカードは非常時において必需品であることも思い知らされました。

隣にあるもう一つの電話の列に並びなおしました。同じようになりの時間を辛抱強く待ちました。ようやく自分の番になり、10円玉を入れて話を始めました。市外であるため10円玉がどんどん落ちていきます。次々に入れなければなりません。ついに手元の10円玉が無くなり、100円玉を入れました。その直後に話は終わりました。しかし、お釣りは出てきません。家族に連絡ができたことにホッとしつつも、何だか損をしたようでした。

便利な世の中ですが、緊急事態に遭遇したとき家族にどう連絡するか。意外にも難しいことだと実感しました。

### INFORMATION

#### いま話題の **情報モラル教材**

### 情報活用トレーニングノート

体験できます。くわしくはWebで。

検索ワードは

ぶんけい情トレ

検索

<http://www.bunkei.co.jp/bunkei-app/news01/>

各種テレビ・新聞で  
取り上げられました!

体験型  
教材



### 編集後記

まもなく2歳のわが子が先日、近鉄のDVDを見ながら「おっきゅうさん!」と叫ぶので、何事かと思えば新田辺駅前の一休禅師の銅像でした。電車や車に関心強く、そのつながりで見聞きした言葉の吸収が最も早いようです。今後、乗り物テーマを起点に、何を見せ、教えていこうか思案中です。(T記)

企画・編集：ぶんけい教育研究所  
発行：株式会社文溪堂  
発行日：2014年3月1日